

地域のたから東西線編 沿線ぶらり散歩



第12回
(最終回)
青葉通一番町駅

仙台市博物館 学芸員 水野沙織

武家屋敷街から商店街へ

青葉通一番町駅は、戦後に新設された青葉通と東一番丁通の交差点にあります。

東一番丁通は、北から一番町商店街、サンモール一番町商店街の名称で親しまれる、仙台の代表的なアーケード街です。

遡って江戸時代、仙台城下の商業の中心地は奥州街道が大町通と交差する芭蕉の辻付近でした。しかし、その一本東の通りは東一番丁と呼ばれる中級家臣の屋敷街です。広い敷地を持つ武家屋敷には、多種多様な樹木が植えられ、緑溢れる閑静な屋敷街が形成されていたのです。

東一番丁は、定禅寺通と柳町の間を範囲とし、大町通を挟んで北側を糠蔵丁、南側を塩蔵丁と呼びました。これは藩の塩蔵、糠蔵があったことに由来します。この分け方は、ぶらんどーむ一番町とサンモール一番町の境界として継承されているようです。



『釣奇一覽』(仙台市博物館蔵)に描かれた「塩蔵丁野中神社」

江戸時代の城下絵図には、町人町の柳町と武家地の東一番丁の境界となる水路が描かれています。現在、東一番丁の南端に当たるその水路跡には、平成元年に設置された「東一番丁始源地」の碑を見ることが出来ます。

戊辰戦争後、仙台藩は六二万石から二八万石に石高を減らし、藩士の家禄(給料)も大幅に減らされます。彼らは軍人・教師、官人への転職、北海道移住、帰農など、生活の変化を余儀なくされ、屋敷を手放す者も多くなりました。東一番丁も荒廃していきましたが、旧藩士の山家豊三郎の機知により士族にも商売が広まり、荒れた住宅地から一転、明治時代半ばには店舗や飲食店、劇場が並ぶ繁華街へと変貌しました。

隙間に野中神社

さて、東一番丁には江戸時代から姿形を変えながらも残る神社があります。伊達政宗が、慶長六年(一六〇一)に仙台城下の町割りに使用した縄が納められたと伝えられる「野中神社」です。江戸時代は南側の南町通を向いていましたが、明治時代に東一番丁から入るように東に向きを変えました。「文久二年仙台城下絵図」(下部広告掲載資料)には、武家屋敷の中に野中神社と思われる小さな建物が見えます。

現在の社殿は、昭和六三年に再建された



もので、サンモール一番町から小道に入り、小さな鳥居を構えた細い参道を進むと、ビルの隙間にひっそりと鎮座しています。社地は狭いものの、商売繁盛、縁結びの神社として、いまや街に潜む有名なパワースポットのひとつです。

野中神社の境内の片隅には、古い石玉垣の一部と、手水鉢、石灯笼が残り、中には文化横丁の名前の由来となった映画館「文化キネマ」(大正一四年(一九二五)開場)の石柱も見えます。劇場街であった往時を偲ぶ数少ない場所といえるでしょう。

武家屋敷街である「丁」から、商店街の「町」に地名も実質も移行した東一番丁は、時代の変化と共に大きく趣を変えました。東西線開通によって再びその転機を迎えるのでしょうか。

次号からは伊達政宗生誕450周年を記念し新コーナーがスタートします。ぜひ、ご期待ください。

企画展 戦国の伊達・政宗の城・仙台の町

— 斎藤報恩会寄贈の名品

12月27日(火)まで好評開催中!

【観覧料】 常設展料金でご覧いただけます。
一般・大学生：460円、高校生：230円、小・中学生：110円
※30名以上の団体：一般・大学生360円、高校生180円、小・中学生90円
※その他各種割引があります。詳しくはお問い合わせください。

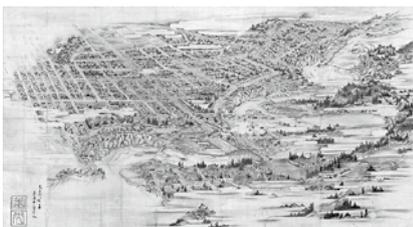
主催：仙台市博物館
後援：宮城県、宮城県教育委員会、河北新報社、毎日新聞仙台支局、朝日新聞仙台総局、読売新聞東北総局、産経新聞社東北総局、日本経済新聞社仙台支局、仙台リビング新聞社、NHK仙台放送局、TBC東北放送、仙台放送、ミヤギテレビ、KHB東北放送、エフエム仙台、ラジオ3FM76.2

●博物館休館のお知らせ●

館内設備改修工事のため、下記期間を休館とさせていただきます。ご不便をおかけしますが、ご了承くださいませようお願いいたします。

平成28年12月28日(水)
～平成29年3月31日(金) ※予定

伊達政宗の時代から幕末まで
各時代の仙台の姿を現す古地図・絵図を多数展示



仙台市指定文化財 文久二年仙台城下絵図
文久2年(1862) 斎藤報恩会寄贈資料

仙台市博物館
SENDAI CITY MUSEUM

開館時間：午前9時～午後4時45分(最終入館午後4時15分) ●12月の休館日：毎週月曜日

TEL:022-225-3074

〒980-0862仙台市青葉区川内26番地(仙台北三の丸跡)
Twitter @sendai_shihaku

仙台市博物館

検索